

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	堀江朋一	学校名	台東区立上野中学校
実施学年	第一学年	教科	技術
单元名	材料と加工に関する技術		

《学びを深めたいポイント》

グループ内の友達からアドバイスをもらい、「どのようにしたら正しいくぎ打ち・接合ができるか」を話し合うことにより、電子黒板や一人一台端末（『SKYMENU Cloud』発表ノート）を活用しながら、友達へくぎ接合した製作物を見て、実習課題を考え、自分の作業に活用させる。また、友達の発表を聞くことで、正しくくぎ接合（玄翁の使い方）をするためのコツやポイントがあることに気づきをもたせる。

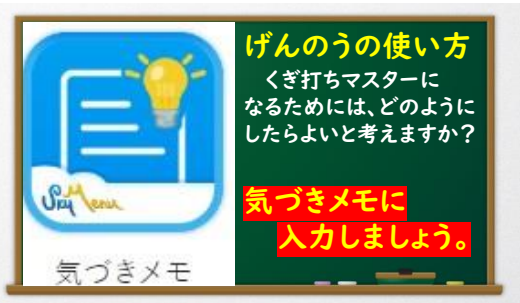
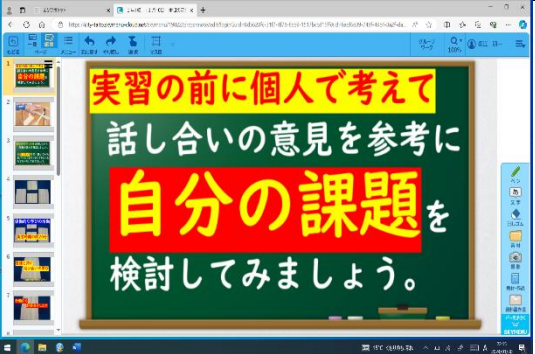
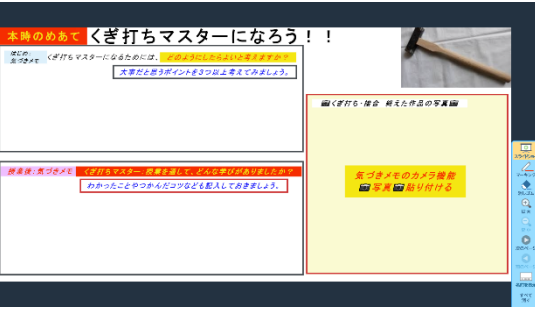
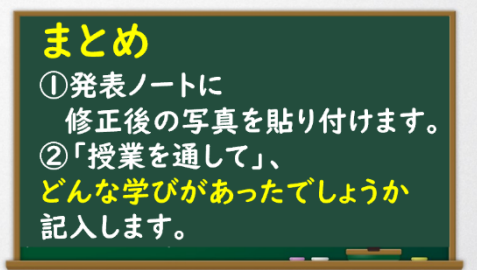
《SKYMENU 活用のポイント》

電子黒板および一人一台端末の『SKYMENU Cloud』を活用して、友達へ実践例を紹介し合う対話的な学びを行い、そこで学び得たことを自分の実習課題である「くぎ打ちマスターになろう」作業の記録を『SKYMENU Cloud』内に記録させる。生徒個人が、くぎ打ちをした製作物の記録を一人一台端末（『SKYMENU Cloud』発表ノート）を活用させながら、本時の記録として『SKYMENU Cloud』を活用してその記録を提出させる。

以下の実践内容

- ・『SKYMENU Cloud』を活用し、前時のふり返し、（実習課題）を再確認させた。
- ・友達同士で実践例の紹介（対話的な学習）を実施する際に活用した。
- ・実習課題の記録を『SKYMENU Cloud』に提出させた。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1. 前時のふり返しを確認する。 2. 本時のめあてを提示し、確認する。 本時のめあて： くぎ打ちマスターになろう ※両口玄翁の平面側、曲面側の観察をする。		☆電子黒板を利用し提示する。 ☆SKYMENU Cloud にてワークシートを配布する。
展開	1. 本時の学習課題を追求するために、その方法を知り、考える。 2. げんのうの使い方(対話的なグループ学習) 失敗例・くぎが曲がり。・くぎはみ出し。・板に傷がついた。・板割れ。など確認する。 ・班内の友達からアドバイスをもらい、「どのようにしたら正しいくぎ打ち・接合ができるか」を話し合う。 ・電子黒板およびタブレットPCを活用し、友達へくぎ接合した製作物を見て、実習課題を考え、自分の作業に活用させる。 ・友達の発表を聞き、正しくくぎ接合(玄翁の使い方)をするためのコツやポイントがあることに気づきをもたせる。 3. くぎ接合の実習 ・くぎ打ちマスターになることを考えさせながら、製作物へのくぎ打ち・接合をさせ、班内で確認させる。 4. 接合・組み立てした製作物とICTの活用 『SKYMENU Cloud』の提出箱へ各自提出する。	  	☆電子黒板およびタブレットPC『発表ノート』を活用して、班内の友達へくぎ打ち接合のポイント話し合いをさせる。 ・玄翁の使い方について説明できるよう机間指導で助言し、グループ学習を促す。 ・実習において、課題解決している姿を観察しながら机間指導を行う。 ・安全に気をつけて、くぎ打ち・接合ができるようにする。 ☆生徒個人が、くぎ打ちした製作物をタブレットPCを活用し、本時の記録として『SKYMENU』を活用して提出する。
まとめ	学習のふり返し 本時を通して、わかったことやうまくできたこと、うまくいかなかったことを班内で話し合おう。		・くぎ打ち・接合のコツをもとに正確な接合方法の結果ではなく、そこに至る過程をふり返らせる。 ・友達の発表を自分の課題追求に関わらせて聞くことができるようにする。

《実践を振り返って》

本時のめあて くぎ打ちマスターになろう！！

はじめ：
気づきメモ くぎ打ちマスターになるためには、**どのようにしたらよいと考えますか？**

大事だと思うポイントを3つ以上考えてみましょう。

くぎを打つとき、最初は平らな面の方で打つ。
最後らへんは、曲面で釘を打つ。
ついでに、最後曲面を使うことで木を傷つけない(へこませない)ようにする。



くぎ打ち・接合 終えた作品の写真



授業後：気づきメモ くぎ打ちマスター：授業を通して、どんな学びがありましたか？

わかったことやつかんだコツなども記入しておきましょう。

釘を完璧に打ったと、自分で思っていたけど最後、引き出しを入れて確認してみると、入らなかったり入ったり、バラバラになってしまったことが分かった。だから、完璧は難しい！



・今回の授業の実践を繰り返し積み重ねていく中で、文房具と同様に気軽なツールになっていくという手応えを感じることができた。

・毎回の授業のデザインと『SKYMENU Cloud』の発表ノートの活用させるポイントをより考えて、学習課題となる学びのねらいをより明確なものへと導くポイントとなると実感できた。

・グループ内の友達の発表や意見を聞いて、学習課題である「くぎ打ちマスター」になるために玄翁を正しく使い、正しいくぎ打ちをするためのポイントがあることに気づき、グループ内で新たな視点が見られたところや生徒同士が自然と学び合う姿が見られた。また、生徒各々が自分の課題を解決しようとする姿が見られた。